

# 生きる力を身に付けるキャリア教育に関する研究

## ～キャリア・スタート・ウィークへの取り組みをとおして～

### I 研究の内容

#### 1. 研究の具体的内容と方法について

- (1) 第2学年の総合的な学習の時間の中に、キャリア・スタート・ウィークを効果的に取り入れるための計画を立て、それを実践する。また、来年度以降これを継続して実践するためにこの活動の検証をおこなう。
- (2) 甲州市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会と連携を図り、本校のキャリア・スタート・ウィークのシステムを構築する。
- (3) キャリア教育について、職員間で学習を深め、系統的なキャリア教育を実践するための研究をおこなう。
- (4) キャリア教育の視点から見つめた学級活動の研究授業（1，3年）を実施する。

#### 2. キャリア・スタート・ウィークの実施について

##### (1) 農業体験（ぶどうのジベレリン処理）活動について

ア. 実施学年 第2学年生徒全員

イ. 実施日時 平成18年5月22日（月）および5月23日（火）  
午前8：00～12：00

ウ. ねらい（学校教育目標との関連）

○働くことの喜びやきびしさを体験し、地域への理解を深める。

○粘り強い意志で、心身ともにたくましくなる。

○自然を愛し、人を思いやり、愛することができる美しい心情を養う。

エ. 実施内容 ぶどうのジベレリン処理体験

##### (2) 職場体験活動について

ア. 実施学年 第2学年生徒全員

イ. 実施期間 夏季休業中の3日間

ウ. ねらい（学校教育目標との関連）

○働くことの喜びやきびしさを体験し、職業への理解を深める。

○社会人としての基本的なマナーを身につける。

○体験したことを生かし、自分の将来について考える機会とする。

#### 3. キャリア教育の視点での授業研究について

##### (1)（3学年学級活動）

(2) 一人暮らしをしている ～25歳の私～ （1学年学級活動）

## II 成果と課題

### 1. 成果

昨年度までの職場体験（農業体験を除く）は、総合的な学習の時間の「わたしたちの町、勝沼を知ろう」の中のひとつの活動として1日実施していた。本年度、甲州市がキャリア・スタート・ウィークの地域指定となったことを機会に複数日の職場体験を初めて実施した。個人的にも1日の職場体験は何回も実施しているが、初めての経験であった。そのため、当初は複数日の職場体験を引き受けていただける事業所があるのか、また近隣である程度の職種をそろえることができるかなど、不安を抱えたスタートであった。しかし、甲州市のキャリア・スタート・ウィーク実行委員会で事業所へのお願いをしていただき、計画していた各事業所2～3名で参加するための必要な事業所数には結果足りなかったが、効果的な実施をするための必要数をそろえることができた。

また、校内でも今まではどちらかという学年だけの取り組みであったが、指定を機に校内研の研究テーマとしたことで、全校での取り組みとすることができた。1学年の担当教師が少ない本校にとっては、事業所との打ち合わせや体験当日の事業所巡り等、今までよりも人的な余裕を持つことができた。

このようにキャリア・スタート・ウィークを実施しさらに継続するためには、このシステムづくりが欠かせないと考える。今年度この第一歩が踏み出せたことは大きな成果である。

また実施後のアンケートでみると、一生懸命働く人と接し体験することで、働くことの大変さ・大切さを感じた生徒が多かった。また、そこから親への感謝の気持ちまで持つことができ、普段の生活を見直したいといった生徒も少なくない。

生徒にとっても普段できないことが体験でき、机上の学習だけでは味わえない有意義な学習であった。

### 2. 課題

受け入れ先の職場は市内（なるべく学区）を基本としているが、地域柄事業所が少なく、遠方の事業所にもお願いしなければならない。地域との連携また生徒の安全対策からもできる限り地域の事業所を開拓したい。また、職場体験の実施時期が夏休業中であるが、このため家の都合等で参加できない生徒がでてくる可能性がある。

また、市内の他の学校も同時期であるので、事業所が重なってしまい体験のお願いができなかったり、1日の参加生徒が多くなったりしてしまった。今後、本校の実施時期だけでなく、市内の中学校との調整が課題になってくる。

## III 成果物

1. キャリア教育全体計画
2. 1, 3年学級活動授業案

(研究主任 丹澤 千明)